

友枝昭世 嚴島観月能

嚴島神社能舞台（広島県廿日市市宮島町）

平成二十九年十月十八日（水）
午後六時三十分開演（午後六時開場）

玉葛

たまかざら

拂心 拂心 執心の

長き闇路や黒髪



第二十一回 友枝昭世・嚴島観月能

平成二十九年十月十八日（水）
午後六時三十分開演（午後六時開場）
嚴島神社能舞台（広島県廿日市市宮島町）

火入れの儀

仕舞 天鼓 出雲 康雅
岩船 粟谷 能夫

地謡 友枝 真也
狩野 了一
長島 茂
粟谷 充雄

能 玉葛 シテ友枝 昭世

アイ 野村万禄

ワキ 森 常好

大鼓 國川 純
小鼓 横山 幸彦 笛 出雲 敏弘

後見 塩津 哲生
中村 邦生

地謡 友枝 雄人
狩野 了一
長島 茂
粟谷 充雄
出雲 香川 靖嗣
康雅

終了予定 八時頃

◇ 玉葛 あらすじ

諸国一見の僧が、長谷観音に参詣するため初瀬川にさしかかると、岩間伝いに小舟に棹さして上ってくる女に出会う。不審に思った僧が声をかけると、女は自分も初瀬寺に詣でる者だと答え、古歌にも「海女小舟初瀬の川」と詠まれているとおぼし、小舟はこの川に縁があるから不審に思わぬようにと答えると、夕霧の絶え間に美しい紅葉を見ながら二本の杉へと案内する。僧が「二本の杉の立ち所を尋ねずは」の和歌の心を問うと、女は玉葛が筑紫から逃げてここに来たところ、母である夕顔の侍女だった右近にめぐり逢い、そのとき右近が詠んだ歌であると答え、なお玉葛の身の上を語る。夕顔が亡くなったから、娘の玉葛は思いもかけず都を離れて筑紫で生

活することになるが、田舎住まいの辛さと悲しい出来事に心は沈み、とうとう舟で都へと逃げ帰る。都に着いても心細く頼りない境遇なので初瀬の寺に参拝すると、逢えまいと思っていた右近に出会えたのだ。昔を物語った女は、自分は玉葛の亡霊であるとのめかすと、僧に弔いを頼んで消える。玉葛の跡を弔おうと読経する僧の前に、玉葛の亡霊が寝乱れ髪姿で現れる。昔のことを思い悩み、妄執にひかれて苦悶するありさまを見せるが、人をも世をも恨むこともなく、すべて我が身ひとつが犯した罪の報いであると懺悔すると、妄執を晴らし、心は真如のように澄みわたって成仏するのだった。

入場券・全席指定

- S席 15.000円
- A席 12.000円
- B席 10.000円
- C席 7.000円

宿泊・交通問合せ ひろでん中国新聞旅行 たび館

担当:細越(ほそこし)・住吉(すみよし) ☎ 082-543-2040 FAX082-543-2019 携帯:080-6342-2719(米澤)

入場券販売 チケット販売開始:平成29年7月12日(水)

- 中国新聞社読者広報部 ☎082-236-2455 AM9:30~
 - *中国新聞各販売所でもご購入できます(取り寄せ)
 - 宮島観光協会 ☎0829-44-2011 AM9:30~
 - チケットぴあ ☎0570-02-9999 AM10:00~
- Pコード:459-985 <http://pia.jp/> 店頭販売:セブン-イレブン/サークルK・サンクス/ぴあ店舗

